

第三者評価結果

事業所名：あいみー南加瀬保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>園の全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針等の趣旨をとらえて作成されています。保育の理念、保育方針や目標にもとづき、保育園の特徴や、保育の姿勢など6つの柱としています。子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態等に配慮し、子どもの育ちを長期的な見通しをもって作成しています。さらには、新たに小学校との連携を明確にしました。「幼児期までに育てほしい姿」10項目と、「教育・保育において育みたい資質・能力」の3本柱を掲げています。乳児期から幼児期までのそれぞれに、年間指導計画から、月・週・デイリー指導計画へと反映をさせています。その都度の評価・反省を踏まえて年度末に職員全体で話し合い、次年度の全体的な計画編成に生かしています。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>空気洗浄機を備え、子どもたちが快適に過ごせるように、適切な湿温度管理を行っています。保育室は、1階が0歳児と1歳児のスペースとなっています。保育室の間仕切りはなく、保育士が広く見渡せ、見守りができる環境です。職員が牛乳パックで、長椅子や間仕切りを子どもサイズに製作し、活動ごとに活用し、子どもがゆったりできる場所を作っています。子どもたちはお気に入りの長椅子に座り、散歩に向けて靴下を履く練習をしていました。遊具は毎日消毒を行っています。遊具は、年齢に合わせて、素材や取りやすさ等の配置と工夫をしています。各クラスの担任は、部屋の模様替えに工夫をこらし、季節感のある制作物を掲示しています。手洗い場・トイレは各部屋に設置していますが、子どもたちが並ぶことが多く、工夫が課題となっています。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>園の特徴に、子どもたちが持っている力を発揮するチャンスを豊かにし、年齢の枠にとらわれすぎない柔軟な保育を行うこと、子どもの人格・個性を踏まえて「らしさ」を培っていきける保育を掲げています。子どもの心身の成長や課題を、発達過程記録や個人指導計画で把握して、子どもの状態に応じた保育を行っています。クラスは5人制の少人数で、小規模認可保育園ならではの雰囲気と特色を生かしています。担任は、子ども一人ひとりの気持ちや表現を汲み取り、気持ちに添った保育の対応を行っています。職員は、それぞれの活動の場において、声かけでやる気を促し、子どもが自主的に意欲が高められるように心がけています。子どもの心身の発達については保護者からも評価を得ています。危険や安全確保のために、制止や禁止させる言葉を用いた場合は、振り返りをし声かけの方法について職員間で話し合っています。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの子どもの発達に合わせて生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるように配慮をしています。子どもがやろうとする気持ちを大切に、強制することなく、一人ひとりの主体性を尊重した保育を行っています。身の周りのことや排泄等、自分でやろうとする姿を認めたり、褒めたりしながら、意欲に繋がるように職員は援助を行っています。子どもたちが一緒に玩具を使ったり、遊びの活動をする際には、約束ごとを話して、理解できるように働きかけています。玩具や持ち物の置き場所等わかりやすいように配置し、片付けを自主的に行えるように工夫をしています。家庭での子どもの生活リズム等の様子を聞きながら、一人ひとりの状態に応じて、午睡や休息が取れるように配慮をしています。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント> 保育室には、年齢に合わせた玩具を用意し、自主的に子どもたちが遊べるよう工夫しています。夏は、1階のテラスでプールを楽しんでいます。自由な体の表現活動ではリトミック、言葉の表現活動では英会話を週に1回、取り入れています。園では、年齢の低い時期から身体づくりを意識して、戸外活動や、たくさん歩く散歩を積極的に取り入れています。子どもの体力に合わせた散歩コースが考案されており、散歩マップを製作し掲示しています。散歩に出かける際には、異年齢同士が手を繋いで出かけています。人気の散歩コースに動物公園があり、動物と触れ合ったり、季節の植物を観察して図鑑で調べるなど、自然と触れ合う機会も取り入れています。遊ぶ前には、安全に遊ぶための決まりやルールを知らせて、見守りをしています。例年では、老人施設訪問や、昔語り体験、他園児との交流などの地域交流を行っています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 一人ひとりの発達過程を保護者と連携を取りながら、乳児へは養育と教育が一体的になるように、生活と遊び、環境への工夫をしています。乳児は特定の保育士が主に関わり、ゆったりとした関りで愛着関係が持てるようにしています。子どもの表情を大切に、不安な気持ちや欲求を温かく受け入れスキンシップの時間を十分に取、応答的な関わりをしています。0歳児クラスは、5名制で月ごとの保育計画では、保育、環境づくりと援助を個別に計画を立て、一人ひとりの状況に応じた保育を行っています。「クラスのたより」では発達過程に応じて、スプーンを持てるようになった様子、身の回りに興味を持ち「自分でやってみよう」とズボンや靴を脱げるようになってきた様子、バギーに乗った散歩から、手を繋いで歩いた様子等を紹介し発達の様子を保護者と共有しています。連絡帳や、送迎時の保護者との会話を通じて家庭と連携を行っています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 1・2歳児クラスは、5名制で月ごとの保育計画では、保育、環境づくりと援助を個別に計画を立て、一人ひとりの状況に応じた保育を行っています。子ども同士のトラブルがあった時には、お互いの気持ちを尊重して仲介に入り、友だちとの関わりを図っています。一人ひとりの発達に応じた保育をじっくり丁寧に行うように心がけています。出来ることは、自分でできるよう十分な見守りと手助けを行い、自我の育ちを受け止めるようにしています。ごっこ遊びでは、おもちゃの貸し借りや、ありがとうのやり取りを保育士が関わりながら見守っています。散歩では、異年齢の子ども同士で手を繋いで歩き、関わりを深めています。保護者には送迎時に子どもの様子を伝えて、家庭との連携を図っています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 3歳児以上の保育では、子ども同士の関わりの中で順番があることや、ルールのあることを理解しやすい言葉で伝えるようにしています。子どもからの働きかけを踏まえた応答的な触れ合いや言葉かけをして、自分でしようとする気持ちを大切にしています。日頃の散歩では、季節を感じ、自然に触れ合うことや、発見の幅が広がるような関りを行っています。見つけた花や虫を図鑑で調べて興味を広がっています。玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切な物を選び、遊びを通じて感覚の発達が促されるように配慮をしています。5歳児は、運動会では選手宣誓の役目や、当番活動を行う等、友だちと役割を分担したり、力を合わせてやり遂げる環境を整え、保育士は適切に関わっています。夏の夕涼・運動会・生活発表会では、子どもたちの育ちや取り組んできた活動を保護者や地域等に伝えています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p><コメント> 障害のある子どもの発達状況や保育の活動について、保護者と情報を共有し、配慮の必要性に応じて保育の内容を職員で話し合い見直し、適切な保育計画と支援が行えるように努力しています。子どもの様子に気づきを感じられた場合は、まず保護者との連携を密にして、子どもの様子を職員で共有し、保育園での生活に配慮するようにしています。必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けられる環境です。現在、障害のある子どもは在籍していませんが、受け入れる場合での環境の整備、改善が課題となっています。職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得る機会に参加をしています。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>
長時間保育は、1日の生活を見通して子どもの疲れや、子どもの気持ちに寄添って、遊びや配置の工夫をして、穏やかに過ごせるように配慮をしています。
異年齢の子どもが合同に過ごす場合は、遊びコーナーを作り安全性に配慮し、職員の配置に工夫をして環境の見守りをしています。午睡・食事・トレーニングなどのスペースについて、子どもの状況に応じて穏やかに過ごせる工夫が今後の課題と考えています。子どもの在園時間や生活のリズムに配慮した補食・おやつ等の提供を行い、心身の欲求が満たされるようにしています。子どもの状況について、保育士間の引継ぎを行い、保護者には一日の活動記録をホワイトボードを通じて伝えると共に、降園時には保育士が、一人ひとりの様子を口頭でも伝え、連携が十分取れるように配慮をしています。

<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>
園の全体的な計画の中に小学校との連携や就学までに育てたい姿を10項目と、教育・保育において育みたい資質・能力の3本柱を掲げ、それにもとづいて保育を行っています。就学へ向けて、喜びや期待を膨らませ、自信や自覚を持てるように保育の関わりを行っています。
運動会では、みんなで力を合わせる大切さを感じたり、発表会では、準備等の話し合いをして、達成感や充実感を体験しています。生活の中で、数・量・形・位置・時間を遊びに盛り込んだ工夫をしています。小学校を訪問する機会があり、児童とゲームをする等交流を通じて就学の喜びを体験しています。園長は幼保小連携会議や小学校の参観、及び懇談会等に参加するように努め、小学校との連携を図っています。子どもたちの育ちを支えるための資料、保育所児童要録を作成し、保育所から小学校へ送っています。

<p>A-1-(3) 健康管理</p> <p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
---	---

<コメント>
園の全体的な計画の中に小学校との連携や就学までに育てたい姿を10項目と、教育・保育において育みたい資質・能力の3本柱を掲げ、それにもとづいて保育を行っています。就学へ向けて、喜びや期待を膨らませ、自信や自覚を持てるように保育の関わりを行っています。
運動会では、みんなで力を合わせる大切さを感じたり、発表会では、準備等の話し合いをして、達成感や充実感を体験しています。生活の中で、数・量・形・位置・時間を遊びに盛り込んだ工夫をしています。小学校を訪問する機会があり、児童とゲームをする等交流を通じて就学の喜びを体験しています。園長は幼保小連携会議や小学校の参観、及び懇談会等に参加するように努め、小学校との連携を図っています。子どもたちの育ちを支えるための資料、保育所児童要録を作成し、保育所から小学校へ送っています。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>
健康診断・歯科健診の結果を「健康診断結果記録」に記載し、職員で共有し周知しています。健康診断の結果を踏まえて、配慮が必要な子どもには、保育計画の見直しを行い無理のない保育を行うように努めています。
健康診断・歯科健診後は、「すこやか手帳」に結果を記載し、保護者に伝達し家庭からの報告も含めて、看護師が管理し、職員でも共有しています。「ほけんだより」では、健診の情報や季節ごとの健康に関する注意点や、子どもの病気とその症状・病気に関わる注意事項等を紹介しています。健康で安全な保育園生活を送るために、保護者には家庭と保育園とで連携を取る必要性を伝えていきます。

<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>
アレルギー疾患のある子どもに対して「食物アレルギー疾患のガイドライン」「子どもへの対応マニュアル」をもとに子どもの状況に応じた適切な対応を行っています。必要に応じて、医師の指示のもとに対応を行っています。
アレルギー疾患のある子どもは、入園時の面談で保護者から情報を得て確認し、食事の提供には適切な対応が行えるように十分な配慮を行っています。アレルギーの子どもの食事は、調理師がチェックした後に、担任がダブルチェックを行っています。食器を変え、机も別にしていきます。おかわり用の食事も別に用意しています。乳児に関しては、保育士が1名援助に入ります。アレルギー対応の研修「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン、エピペンの使い方」についての研修があり、参加をして知識・情報を得ていますが、更に職員の技術の習得が必要と考えています。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<p><コメント></p> <p>食に関する豊かな経験ができるように、園では、食育を年間計画に組み込み実施しています。栄養士による、栄養バランスを考えた給食の提供はもとより、今年は各クラスでピーマン・人参・枝豆の種をまいて、栽培、収穫、食べるまでの一連を楽しみながら体験しています。</p> <p>食事の際は、食席を変えたり、日常的にメニューにちなんだ会話をしています。給食メニューに登場した行事食や郷土料理の由来を学んで食べたり、クッキングの実施等も行い、食に興味をもって、おいしく、楽しい食事ができるよう雰囲気も大切に工夫をしています。子どもの発達にあわせて負担にならない程度に声かけをして食べることへの意欲を持てるようにしています。園と家庭で食事状況を共有し、食の進みについて連携を取っています。</p>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>今年度の食育テーマは「各地の特産物や郷土料理」です。食事のメニューに郷土料理や行事食を取り入れています。毎月の「給食だより」には、各地の郷土料理やレシピ、旬の食材を紹介しています。</p> <p>「献立表」には、食物が体のどんな力になるのか分類し、分かりやすく表示しています。また、メニューには、子どもたちのリクエストメニュー、世界の料理、季節の料理を取り入れています。栄養士はクラスを回り、子どもの喫食状況や食べ具合を確認しています。「喫食状況報告書」に記録を取り、「給食日誌」の状況も踏まえて給食会議を行い、子どもが、おいしく安心して食べることができる食事の提供に努めています。「衛生管理マニュアル」に基づき衛生管理を適切に行っています。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>個人別の日報や個人記録等により、家庭での生活や園での生活の情報を、保護者と園でお互いに情報共有しています。保育の意図や保育内容について、クラスごとの園だより、保健だよりやホームページで保護者の理解を得るようにしています。送迎時に職員は保護者に積極的に声かけを行い情報交換を行っています。少人数の園であり、クラス担任以外の職員も子どもや保護者と顔見知りになり、家庭との連携ができています。日常の様子を掲示する等で子どもの成長を共有しており、今後はICT化も検討しています。家庭の状況、保護者との情報交換の内容を個人別にファイルして記録しています。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>職員全員による声かけなど日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くようにしています。個々の家庭状況の理解に努め、必要な支援を行っています。就労に課題がある保護者と相談して、子どもの成長に影響がないようにも取り組んでいます。子どもの発達が遅いと不安など、保護者からの相談には必ず数日中に対応するようにしています。相談内容を適切に記録して、相談を受けた職員が対応できるように体制を整えています。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態や家庭での養育の状況の把握を行い、虐待の予防に努めています。日ごろから一人ひとりの様子に目を向け、職員全員で子どもからの発言や小さな変化を見逃さないように気をつけています。保護者の様子等で気になることがある場合は、園長に報告するとともに職員間で共有し、それぞれの目で観察し合うようにしています。職員に対して、虐待等権利侵害に関する理解を促すための研修を行っています。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
A-3-(1)-① 【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<コメント>	
職員が個々に保育実践の振り返りを行っていますが、職員が集まり互いに学び合う機会の面では十分ではありません。保育に関する日常の記録とともに、週、月、年ごとに保育の評価を行い、反省を記録しています。保育士等が定期的に自己評価を行い、主体的に自らの保育実践の振り返りを行っています。個々での振り返りを行っていますが、園全体での学び合いや情報共有による保育改善、専門性の向上につながる活動になっていません。	